



～受け入れ農家さんの声～



交流は楽しい



生活に張り合いが出る



子どもたちから
得るものがたくさんあった



自分の成長になる



グリーン・ツーリズムで おうしゅうの魅力都市の子どもたちへ



おうしゅうグリーン・ツーリズム推進協議会は、今年で活動14年目を迎えました。新型コロナウイルス感染症の影響で本年度の受け入れは中止となりましたが、多くのリピーターを抱える本協議会には、すでに来年度も約2,000人の中高生が、修学旅行などの農村生活体験学習で訪れる予定になっています。本協議会では、今後も安定的な活動を継続していくため、新しい仲間づくりに力を入れています。受け入れは特別なおもてなしをするわけではありません。訪れる生徒たちはもちろん、受け入れる側にも新鮮な喜びや発見があります。ぜひ私たちと一緒に活動してみませんか。
■問い合わせ おうしゅうグリーン・ツーリズム推進協議会事務局（本庁農政課内、☎34-1582）

●受け入れまでの流れ ※受け入れ時期は4月～10月

受け入れ希望調査

事務局から受入校の日程をお知らせしますので、都合に合わせて受け入れの可否を報告してください。受け入れ可能な場合は、後日、生徒を割り振ります。（4～5人）

生徒から手紙が届く

写真付きで自己紹介が書かれています。

お互いに顔が分かっていると、当日緊張も和らぎます。

生徒へ返事を出す

受け入れ側も写真付きで自己紹介をします。

受け入れ当日

対面式 → 農家へ → 終了式

終了式が終わればそこで生徒たちとはお別れとなりますが、その後もプライベートで遊びに来たり、手紙のやり取りがあったりと、交流を続けている人もいます。

●体験料

【中学生以上】1人につき1泊3食：10,000円、日帰り1食：6,000円
【小学生以下】1人につき1泊3食：9,500円、日帰り1食：5,700円
※食事の回数によって金額は変わります。また、協議会運営費として体験料から10%を徴収します。
例）1泊3食で4人の中学生を受入れた場合の受け入れ農家への支払金額
(10,000円×4人) - 10% = 36,000円

Q 農家じゃないとできないの？

A 農村生活体験の提供ができること、受け入れ中は常時2人以上で対応できることを条件としています。簡単な農作業体験ができる環境があれば、農業を職業としていない人でも構いません。

Q 食事はどうするの？

A 外食はせず、普段の食事を生徒たちと一緒に調理し、後片付けまで行います。家庭料理や郷土食（すいとん、餅料理など）の方が、貴重な体験となり食育にもつながります。

Q 興味はあるけど、いきなり受け入れるのは不安・・・

A 最初は誰もが不安です。実際に受け入れをする前に、受け入れ農家へ行って体験の様子を見学したり、話を聞いたりできます。受け入れ農家は毎年講習を受講しますし、オリエンテーションなどで情報交換もしています。「まずは1校だけ受け入れてみたい」という人も大歓迎です！



<今月の表紙>

胆沢川ラフティング開き

胆沢川に夏、到来——。奥州湖交流館の指定管理を受ける（一社）いわて流域ネットワークは、7月4日に「胆沢川ラフティング開き」を行いました。同法人による胆沢川でのラフティングは今年で3年目。参加者は、いさわかヌー競技場を出発点に、全長約1.5kmの急流下りを楽しみました。問い合わせ、申し込みは奥州湖交流館（☎49-2383）まで。

Public Relations Magazine Oshu City
2020.8 Vol.174
広報おうしゅう
令和2年8月号

CONTENTS

- 2 キラリ輝く奥州人
- 3 グリーン・ツーリズムでおうしゅうの魅力都市の子どもたちへ
- 4 新型コロナウイルス感染症関係の情報
- 6 都市計画用途地域を変更します
- 10 介護の職場で働きませんか
- 12 国勢調査2020 インターネット回答がとても便利です
- 14 街diary
- 16 支障物の撤去にご協力ください
- 17 高齢者肺炎球菌感染症予防接種費用を助成します
旧土地開発公社土地の活用処分状況を公表します
- 18 もっと知ってほしい奥州市民憲章
- 19 ILC希望のひかり
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
- 20 いいとこ、知っとこ おうしゅう
- 21 まなびの里
- 22 もっと安心 ずっとおうしゅう
はい、こちら総合相談室
- 23 子そだて広場
- 24 インフォメーション
- 28 奥州遺産



キラリ輝く 奥州人

82 千葉 さち子 さん（69歳）
＝水沢真城＝

子どもたちに 田舎の生活体験を

「子どもの友達が遊びに来る感覚」と話すのは、グリーン・ツーリズムで訪れる子どもたちの受け入れをして3年目の千葉さち子さんだ。きっかけは息子の「やってみたら」の一言。昔は親戚が寝泊まりし、息子の友達もよく遊びに来ていたので、違和感なく受け入れられた。受け入れ当日は家族で作業を分担する。さち子さんとお嫁さんは送迎や食事、夫が豆腐作り体験、息子がリンゴ畑の作業、孫たちは遊び相手だ。豆腐屋ならではの豆腐ステーション

リンゴ畑に立つさち子さん。農作業体験の場にもなっており、草刈りや摘果などが行われる

「子どものころに、知らない環境の中に飛び込む経験は大事」と受け入れへの思いを語る。「無理をする相手にも失礼を受け入れは1年に3組くらい」と自分や家族のペースを守る。しばらくしてから顔を見せに来る子もいて、それがまたうれいという。今年新型コロナウイルスの影響で全て中止になったが「自分のためにも続けていけたら」と来年に思いをはせた。

キヤおからサラダが人気メニューで、すいとんでは生地を鍋に入れるのも体験の一つ。「子どもに、知らない環境の中に飛び込む経験は大事」と受け入れへの思いを語る。「無理をする相手にも失礼を受け入れは1年に3組くらい」と自分や家族のペースを守る。しばらくしてから顔を見せに来る子もいて、それがまたうれいという。今年新型コロナウイルスの影響で全て中止になったが「自分のためにも続けていけたら」と来年に思いをはせた。



ちば・さちこ◎昭和26年、一関市千厩町生まれ。「おうしゅうグリーン・ツーリズム推進協議会」会員。夫・克司さん（71）と千葉とうふ屋を営む。夫、息子夫婦、孫3人の7人家族。